「ぼけますから、よろしくお願いします。」監督 信友直子さん コラム（2）

「介護はプロとシェアしなさい」

認知症の母と笑顔で暮らせたのは、介護のプロの方たちや周りの支えも大きかったと思います。

実は最初の2年間は、父と私だけで介護していました。父が「他人の世話にはならん。わしにも男の美学があるんじゃ」と言い張って、母の要介護認定を受けようとしなかったからです。

当然近所にも内緒にしていたので、まるで引きこもりのような状態。これは父にも母にも良くありませんでした。父は母から目が離せなくていらつき、母も生活にメリハリを失って病状が進むという悪循環でした。

父を説得して母の要介護認定を受け、通所介護や訪問介護をお願いするようになると、両親とも見る見る元気を取り戻しました。父は頼れる相手ができてホッとし、母は再び社会とつながれて生き生きしてきたのです。

「介護はプロとシェアしなさい」その頃に認知症専門医からいただいた言葉です。他人にでもできることはプロの方が上手いのだからお任せして、家族は「その人を愛する」という一番大事な任務を全うしなさいと。

家族が何もかもやろうとすると、ストレスが溜まって本人のことを恨むようになってしまいます。それでは本末転倒です。介護はいつまでという先の見えないもの。いつまで続いても「その人を心から愛し続けられる」介護体制を作ることが、本人にとっても家族にとっても一番大切なのです。

介護サービスの活用だけでなく、周囲に事情を話して協力体制を作っておくことも大事です。ウチもご近所に母が認知症だと話したら、驚くほど親身になってもらえました。今は誰が認知症になってもおかしくない時代ですから、みなさん他人事ではない、おたがいさま、と思っておられるのでしょう。

映画のタイトル「ぼけますから、よろしくお願いします。」には、認知症になっても気軽に「よろしくね」と言い合える社会であってほしい…。そんな私の願いも込められています。

映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」より

映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」上映会＆信友監督講演会は令和3年6月26日（土）白壁ホールで開催します。詳細は広報うきは5月15日号にてお知らせします。皆様、お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

●問合せ　男女共同参画センターだんだん ☎77-2661